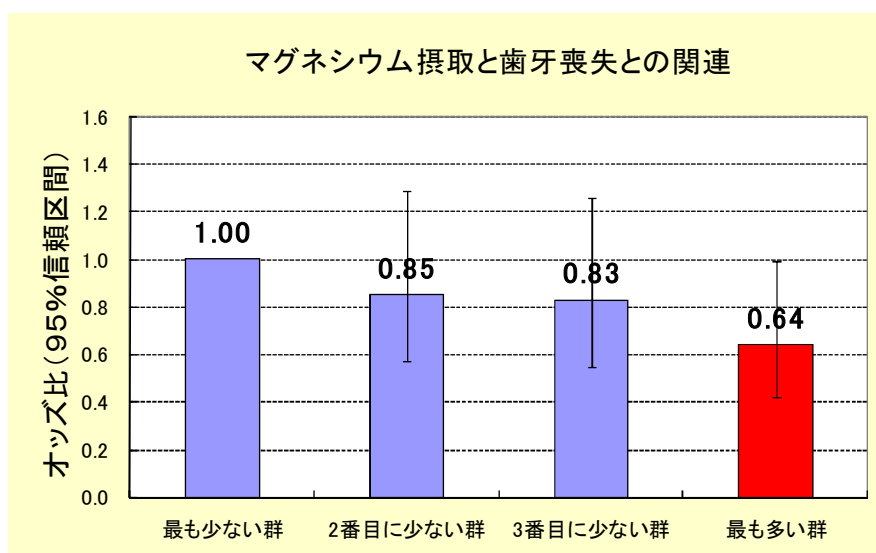


## 大阪母子保健研究ベースラインデータの結果 ミネラル摂取と歯牙喪失との関連

**背景：**ミネラル摂取と歯牙喪失との関連に関する疫学研究はとても少なく、咀嚼能力が減弱した高齢者を対象とした研究がそのほとんどを占めています。将来の歯牙喪失を予防する観点から、若い成人における栄養摂取と口腔疾患との関連に関するエビデンスが必要とされています。

**方法：**大阪母子保健研究のベースライン調査に参加した1002名の妊婦さんを対象としました。今までに1本以上永久歯を抜歯したことがある場合を「歯牙喪失あり」と定義しました。栄養摂取は、食事歴法質問調査票を使用しました。年齢、ベースライン調査時妊娠週、子数、能動喫煙状況、家庭内及び職場での受動喫煙状況、家計の年収、教育歴、過去1ヶ月の食事変容、回答時の季節及びBMIを交絡因子として補正しました。

**結果：**1002名の妊婦さんを摂取量によって4等分すると、最も多くマグネシウムを摂っている群は、最も少ない群に比較して、歯牙喪失ありの人の割合が有意に少なくなりました。



カルシウム、リン、鉄、亜鉛及び銅といった他のミネラル摂取と歯牙喪失の間には、有意な関連は認めませんでした。

**結論：**今回、日本で初めて、若い成人におけるミネラル摂取と歯牙喪失との関連を解析しました。マグネシウムの摂取は、歯牙喪失に予防的であるのかもしれない。

**出典：**Tanaka K, Miyake Y, Sasaki S, Ohya Y, Miyamoto S, Matsunaga I, Yoshida T, Hirota Y, Oda H; Osaka Maternal and Child Health Study Group. Magnesium intake is inversely associated with the prevalence of tooth loss in Japanese pregnant women: the Osaka Maternal and Child Health Study. *Magnes Res.* 2006; 19: 268-275.